



令和5年度

下作延小PRIDEにむけて

学校説明会

今年度に向けた取組

行事時期の変更

- 4月6日(木) 始業式・入学式
- 4月 4年～6年 川崎市新学習状況調査の実施 調査結果は個人の学習計画としてGIGA端末に反映されます。
- 個人面談時期の変更 7月(全員)9月(全員)12月(希望)
- 主体的な取組準備確保として 秋季運動会
- 水泳学習復活

下作PRIDEを育てるための活動の確保

- 生活科・総合的な学習の時間の学習による体験的な学びの充実、児童の主体的に取り組む時間の確保(市制100周年・全国緑化フェアに向けた取り組み)
- かがやき交流会の実施
- 運動会を含めた特別活動を通して、児童の創造性を伸ばす指導を進める

今年度に向けた取組

学び

知識の定着と学力向上

- 学習環境改善のために、35人以下の学級編成を計画する。
- 15分の学習時間(ぐんぐんタイム)では、基礎基本の定着を計画的におこなう。
- 60分間の水曜5時間目
- 専科教員(体育)の配置 3～6年書写 6年音楽専科
- 学年内教科担任制の推進

GIGAスクール構想、ステップ3(効果的な利用)に向けて、学習スタイルを再検討する。

- クロームブック(PC)を有効に利用した学習活動を積極的に行う。表現活動の一つの方法としてのスキルをつけるだけでなく、表現方法として効果的使用できるように指導していく。

今年度に向けた取組

心

児童支援への取組の強化

- 共生教育プログラム、SOSの出し方受け方教育の確実な実施
- 誰もが過ごしやすい環境づくりのための人権教育の推進
- 下作PRIDEに掲げる自尊感情の醸成
- きめ細かな教育相談体制の充実(支援教育CO・カウンセラーなど)

情報モラル教育の推進

情報

- 児童それぞれのIDの大切さを伝えると共に、情報端末使用から起こるリスクについて、専門家から講義を受けるなど将来に向けて必要な情報モラルのスキルを保護者と共に身につける。

今年度に向けた取組

絆

各種取組の推進（開かれた学校としての関わり）

- コミュニティスクール（西高津中学校区学校評議委員会）としての取組の推進（交通安全、防災、環境整備、IT活用）
 - 小中連携教育「心」の教育の推進（4校共通課題）
- 川崎市SDGsパートナーズとしての教育活動の推進
 - SDGsを意識した活動の実践
- 川崎スポーツパートナーと連携した健康教育の推進
 - スポーツ教室の開催
- 学校・保護者・地域・行政をつないだ防災・防犯教育の推進

教育活動の広報と伝達集計のIT化

システム

- 学校だより、学校ホームページなどによる、教育的意義や目的、成果についての広報
- ミマモルメを利用した各種アンケート及び伝達

学習指導・教育課程

- ①基礎・基本の確実な習得と活用する力・互いに高めあう子どもの育成
- 全ての教科を通して学ぼうという意欲を高め、「わかる」「できる」「楽しい」を実感し、共に学び合う子供を育てます。自分の考えをしっかりともち、根拠をはっきりさせて伝え合う指導をします。
 - 習ったことを生かし、意欲をもって学べるよう導入を工夫したり、具体物やノートを活用し、考えを整理したり振り返りをして次の学習につなげたりします。
 - 朝の短時間学習等を通して、基礎基本的な問題に繰り返し取り組み、知識理解の定着につなげます。

◆『何を学ぶか』だけでなく、『どのように学ぶか』を重視して、主体的、対話的で深い学びを視点にした授業改善を意識して進める。

◆これまで通り、子どもが取り組んだ成果物(ノート、ワークシート、ドリルパーク等)を教師が見取り、指導に生かしていく。

4 質の高い教育を
みんなに



学習指導・教育課程

②個に合わせた支援の充実

- ・ 少人数指導（3年生までは35人以下学級編成）、TT（教員2人体制による指導）、習熟度別授業、サポーターによる支援や学習センターを活用した指導や支援等を行います。
- ・ 教科担任制による指導内容の充実を図ります。（3年生以上では、教科交換をし指導力の向上を図ります。）

◆少人数指導のよさを生かし、教員同士の連携を密に図り、「わかる」「できる」姿が見られるように支援を充実させていく。

◆指導人数の体制にとらわれるのではなく、それぞれの学級内で有効な支援方法を考え、日常につまづくことが少なくなるような指導を進める。職員同士、より良い指導方法を積極的に共有する。



学習指導・教育課程

③防災・防犯教育の充実

- 避難訓練・防犯訓練の想定ややり方を工夫したり、自分の身を守るための指導を行ったりします。
- 保護者と共に学び、地域とつながる防災教育を工夫し実践します。

- ◆ 地震・火災の他、洪水や台風等の避難も視野に、朝会の活用やカリキュラムを再考し、より充実した防災・防犯教育に取り組んでいく。
- ◆ 防災教育を通して、備える大切さを地域に発信し、有事の際児童の安全確保はもとより、避難所となる学校施設を有効に活用できるよう、地域住民の避難所利用の理解を進める。
- ◆防災バックの中身を再考し、災害への備えを高めていく。

3 すべての人に
健康と福祉を



11 住み続けられる
まちづくりを



13 気候変動に
具体的な対策を



学習指導・教育課程

④情報教育の充実

- 一人一台タブレットを利用して、機器の端末操作方法を系統的に指導し、適切に活用できる力と態度を育成します。
- 発達の段階に合わせて系統的に情報モラル教育を進め「適切なコミュニケーション」を育てます。

- ◆ 情報社会においての、適正な活動ができる考え方や態度の基になる考え方を「情報モラル」と定め、折に触れ各教科の指導の中で身につけていきたい。また、年間計画を作成したい。
- ◆ 各学年、習得すべき技術目標を設定して学習を進めていきたい。
- ◆ 各学年のどの単元でどのように端末を活用しているか把握し、
- ◆ より有効的に端末を使っていきたい。



学習指導・教育課程

⑤健康教育・運動する子ども

- 日々の体育授業や養護教諭や学校栄養士による健康に関する授業や日常的な衛生管理への意識を高めるなど、健康や体力に関心をもつ子供を育てます。

- ◆ 感染予防対策は継続して徹底し、年間を通して特別活動のカリキュラムを見直しながら、衛生指導、歯磨き指導や食の授業、保健・給食・集会委員会等、子供と協力した活動を引き続き充実させていく。
- ◆ きらきらタイムの確実な実施と充実を図り、運動の楽しさを体験することから、体力や運動への関心をより高める。
- ◆ 保護者とともに子供の健康について考える機会をつくったり、学校保健委員会の組織や内容に関して再考していく。



特別活動

⑥主体的に取り組む気持ち、自己有用感の育成

- 委員会活動・クラブ活動、係活動その他の活動において、**子供たちの発想や意欲を生かした活動**に取り組み、自分たちで楽しい学校をつくれるように指導します。
- 運動会、40周年記念式典、かがやき発表会など**児童の発想から活動が進められるよう**にします。
- 行事を通して**協働し、連帯感・達成感**を味わわせます。

- ◆ 児童の発想を生かし、意欲を高めることができるような指導を丁寧に行うとともに、行事内容を精査し、より効果的な実施時期について再考していく。
- ◆ その学習活動はSDGsの何に関わっているのか意識した提案、実施を大切に、指導を継続していく。



保護者・地域との連携

⑦地域に愛着をもてるような教育活動

- 生活科・総合的な学習の時間・社会科の学習、行事等で地域の「もの・こと・人」との出会いやふれあいを通して**地域を愛する気持ち**、**感謝の気持ち**を育てます。
- 目的をもって地域に出かけ、**地域の良さを実感する活動**を取り入れます。
- 積極的に**地域教育資源を開発**し、**地元企業との連携**した授業開発を進めます。

◆ かがやき交流会については、それぞれの体験活動がねらいと合っていたのかを振り返り、来年度以降の内容をさらに検討していく。

◆ これまで通り、教員も地域に出かけ、教材開発に努めながら、児童の実態や興味、関心に基づき、子どもたちが主体となった授業をつくっていく。

◆ 日頃から「下作延小PRIDE」「かわさきPRIDE」を意識した学習活動に取り組んでいく。

◆ コミュニティ・スクールのサポート部門を構築し、**地域・保護者のさらなるサポートの充実を目指す。**

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



11 住み続けられる
まちづくりを



12 つくる責任
つかう責任



13 気候変動に
具体的な対策を



14 海の豊かさを
守ろう



児童支援

⑧命の重さや価値を実感し、思いやりの気持ちをもつ

- 一人一人の子供が友達や先生とかかわりながら、自分も相手も大切にできるように、すべての教育活動を通して、**心の教育・命の教育**に努めます。
- 人権週間には、「**子どもの権利学習**」を通して、**命の大切さや生きる権利**を教えています。

- ◆ 自分自身を大切にする、学校や学級の友達を大切にする心を養うために、児童理解を活かして、子供が十分に活躍できるようにする。
- ◆ 体験的な活動を通して、心が豊かになる時間を過ごすことができる機会を計画的につくる。

4 質の高い教育を
みんなに



5 ジェンダー平等を
実現しよう



児童支援

- ⑨共生・共育の実施、コミュニケーション力の育成、いじめを許さない学校風土
- 各学年6時間の「**共生＊共育プログラム**」を行い、**社会性のスキルの**習得に努めます。
 - 「生活のふり返しカード」「学校生活アンケート」を実施し、友達の気持ちを考えながら、助け合って生活することを意識づけ、**いじめの防止**に努めます。
 - 教職員はいじめ防止委員会を計画的に開催し、**教職員で課題を共有しながらいじめ防止・問題解決**に努めます。
 - 児童支援コーディネーターを中心に**子供の心に寄り添ったチーム支援**を行います。

- ◆ 学習と経験を積み重ねていく場を設定し、コミュニケーション能力の育成を図る。
- ◆ 個の理解と集団作りを進めていけるように今後も引き続き継続して取り組み、子どもにとって居心地の良い学校、学年、学級にしていく。



児童支援

⑩ 皆が気持ちよく過ごせるための規範意識の育成

- 学校のルールを全校児童に理解させるよう提示を工夫したり、守れるように言葉かけをしたりします。また、全校ミーティングなどで**子供たち自身が気持ちよく過ごせる学校生活のルール**について考えるよう指導します。
- 2か月ごとの生活目標について、**ふりかえりを全校で行い**その成果を確認し、取り組んでいきます。

◆ 子供たち自身が互いに気持ちよく過ごすためのルール作りや意識づくりに引き続き参画できるようにする。

◆ 何のためのルールなのかを自分たちで考え、ルールだけでなくマナーも守れるよう各教科等での指導を行うことで子どもたち自身が意識し、行動できるようにする。

10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



16 平和と公正をすべての人に



安全安心な環境

⑪危機管理・施設の整備

- 心肺蘇生やアレルギー研修、**学校安全マニュアル**を活用します。
- 日頃の感染防止対策の徹底、教職員による清掃および消毒作業、**子供の作品や学習に活かせる掲示物の工夫**などを行い、**清潔な空間**を心がけます。
- 地域の安全見守り、避難所運営会議、PTAと連携し**児童の安全確保**を図ります。
- 感染予防教育や交通安全教育、薬物乱用防止教育等を実践し、**安全に対する意識向上**を目指します。
- 教育委員会、地域、保護者と協働し、**学校施設設備環境の改善**に努めます。

◆保護者、地域、コミュニティー・スクールと連携し、今後も委員会に要望をあげ学校施設設備環境の改善に引き続き取り組む。

◆安全に登下校を行う意識を高める指導を継続していく。

◆子供たちの安心安全にかかわる必要な研修を適切な時期に設定し、対応できるようにしたい

6 安全な水とトイレ
を世界中に



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



11 住み続けられる
まちづくりを



12 つくる責任
つかう責任



保護者・地域との連携

⑫学校評価を生かした教育の改善・情報発信

- 学校便り・学年便りにおいて教育方針や児童の様子を保護者・地域の方々にお知らせしたり、**随時ホームページを更新**します。
- 保護者向けの手紙、調査結果等メールによる配付をします。**紙文書の削減のために、ミマホルメやがくぷりによる文書配付を進めます。**（メール配信について注視してください。）
- 学校教育推進会議でのご意見や保護者アンケートを**学校改善**に役立てていきます。

◆コミュニティ・スクールの本来の役割である、具体的に学校運営に関わる趣旨を大事にした組織づくりをする。

◆ホームページのこまめな更新により、教育活動について保護者・地域の理解を深める。

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



皆様に支えられています。

- ふるさと学校応援基金
- WEBベルマーク
- 資源回収
- マックスバリュ 黄色いレシート